



病床数：585床、医師213名、
手術総数6875件
地域がん診療連携拠点病院、
がんゲノム医療連携病院、
厚生労働省臨床研修指定病院
(基幹型・協力型)

外科

- スタッフ数 14名、専攻医数 3名
- 受け入れ可能(希望) 1年目 2名、2年目 1名、3年目 1名
- 年間手術件数 1829例
- 消化管 546例、肝胆膵 370例、心臓・血管 610例、呼吸器 203例、乳腺 101例、小児外科 15例、外傷 1例

当院外科の特色

- ほぼ全ての外科分野（消化管外科・肝胆膵外科・乳腺外科・呼吸器外科・血管外科）の研修・経験が可能（表1参照）。

当科の指導方針

- 客観的に技術があると判断された場合、悪性腫瘍手術を含め積極的に術者を担当してもらう。
- 多くの手術症例が鏡視下でなされ、鏡視下手術の勉強会を定期的に行っている。内容は局所解剖、手術手順、手術Skillに関連したものである。
- 術前併存疾患を持つ症例が多く、周術期管理の重要性をしっかりと習得してもらう。

外科専攻医 1年目到達目標

- 各グループを満遍なくローテーションする。
- 小児外科手術時は（年間約15件）ローテーションに関係なく手術に参加し症例を経験してもらう。
- 外傷は症例数が少ないが、専門医取得に必要なe-ラーニング等の研修費は当科での研修・研究費で賄うことが可能である。
- 令和4年度の専攻医の経験数の実績（図1）から、基本的な手術を中心に術者120例を目標とする（表2）。
- 到達目標とする具体的な術式は表3を参照。

外科専攻医 2, 3年目到達目標

- 1年目（前研修病院）で十分な術者症例が経験できなかった者には、優先的に術者症例を割り当てる。1年目でclearできなかった経験領域は、申告することで補完するのも容易である。
- 2年目以降、経験症例数・客観的スキル評価に基づき、難易度の高い術式の術者を経験することが可能
- 希望するSubspeciality領域を考慮したローテーションを組むことが可能である。ただし他の専攻医との兼ね合いも考慮することを理解していただく。
- 4ヶ月毎に経験症例数の評価を行い、これを指導医間で共有し、専攻医の意向に沿いつつ各領域をローテーションする。術者として、後述の如く1年目より難易度の高い手術を含め（図2-4）目標症例数は120例。
- 到達目標とする具体的な術式は表3を参照。

2年目以降、術者として考慮される術式(指導医の判断あり):図2-4

- 消化管外科 : 客観的なスキル評価(鏡視下での鉗子操作、局所解剖の理解度)を行い、理解とスキルがあると判断されれば積極的に大腸悪性腫瘍手術・胃悪性腫瘍手術の術者を割り当てられる。
- 肝胆膵外科 : 客観的なスキル評価(鏡視下での鉗子操作、局所解剖の理解度)を行い、スキルがあると判断されれば積極的に肝部分切除(腹腔鏡下)、胆嚢炎手術(腹腔鏡下)などを割り当てられる。
- 乳腺外科 : 乳腺悪性腫瘍手術は積極的に割り当てられる。
- 呼吸器外科 : 肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、膿胸
- 血管外科 : 血管内治療、大腿動脈内膜剥離術、下肢静脈瘤手術など

学会活動、論文作成など学術的な活動

- 1年目 2回
地方会で発表する。
- 2年目 2回
うち1回は日本外科学会またはSubspeciality領域の全国学会(消化器外科学会など)で発表する。
日本語の論文を作成する。
- 3年目 2回以上
日本外科学会と希望するSubspeciality領域の全国学会で発表する。
英文の症例報告を作成する。

各グループの特徴(主な術式)

2021年度NCD登録症例数

表1	消化管外科:消化管癌に対する体腔鏡下手術が主流、ロボット支援下手術も施行	
	体腔鏡下食道悪性腫瘍手術	8
	腹腔鏡下胃悪性腫瘍手術	43
	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍手術	92
	ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	9
	腹腔鏡下直腸悪性腫瘍手術	36
	鏡視下鼠径ヘルニア手術	66
	肝胆外科:悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術が積極的に行われている	
	肝切除術(鏡視下)	51(19)
	脾頭十二指腸切除術	27
	脾体尾部切除術(鏡視下)	18(16)
	胆嚢摘出術(鏡視下)	252(232)
	乳腺外科:悪性腫瘍手術が中心	
	乳腺悪性腫瘍手術	89
	呼吸器外科:肺悪性腫瘍に対しても胸腔鏡下手術が主流、ロボット支援下手術も施行	
	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	103
	ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	5
	胸腔鏡下ブラ切除	29
	急性膿胸手術	19
	血管外科:ステントグラフト内挿術、血管内治療が積極的に行われている	
	ステントグラフト内挿術(腹部・腸骨動脈)	38
	膝上・下バイパス術	34
	血管内治療	330
	レーザー焼灼	330

図1

A君(1年目)術者症例105例(2022/04~2022/11)

消化管外科、血管外科、呼吸器外科、肝・胆・脾外科を6ヶ月でローテーション

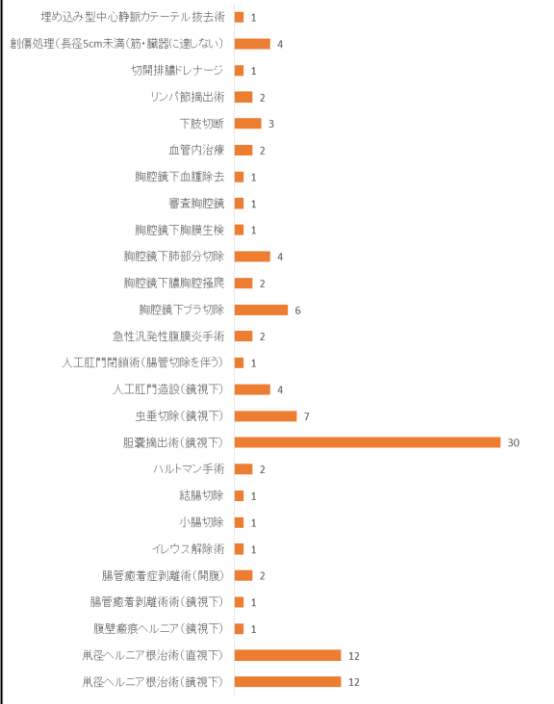


表2

専攻医1年目での術者経験予測数

NCD登録手術内容	経験症例数平均値
虫垂切除(鏡視下)	10
虫垂切除(開腹)	1
鼠径ヘルニア(直視下)	10
鼠径ヘルニア(鏡視下)	10
臍ヘルニア	1
閉鎖孔ヘルニア	1
大腿ヘルニア	1
汎発性腹膜炎手術	
上部消化管穿孔	2
下部消化管穿孔	2
イレウス	
単純イレウス	2
複雑イレウス	2
人工肛門造設術(鏡視下)	2
人工肛門閉鎖術	2
胆嚢摘出術(鏡視下)	20
リンパ節摘出	3
乳腺腫瘍摘出	2
乳腺悪性腫瘍手術	15
胃瘻(腸瘻)造設(PEG)	2
胸腔鏡下膿胸腔搔爬	2
胸腔鏡下肺ブラ切除術	5
胸腔鏡下肺葉部分切除術	5
血管内治療	5
四肢切断	2
小手術	13
総計	120

図2

B君(2年目)術者症例95例(2022/04~2022/11)

呼吸器外科、血管外科、肝・胆・膵外科、消化管外科を8ヶ月でローテーション

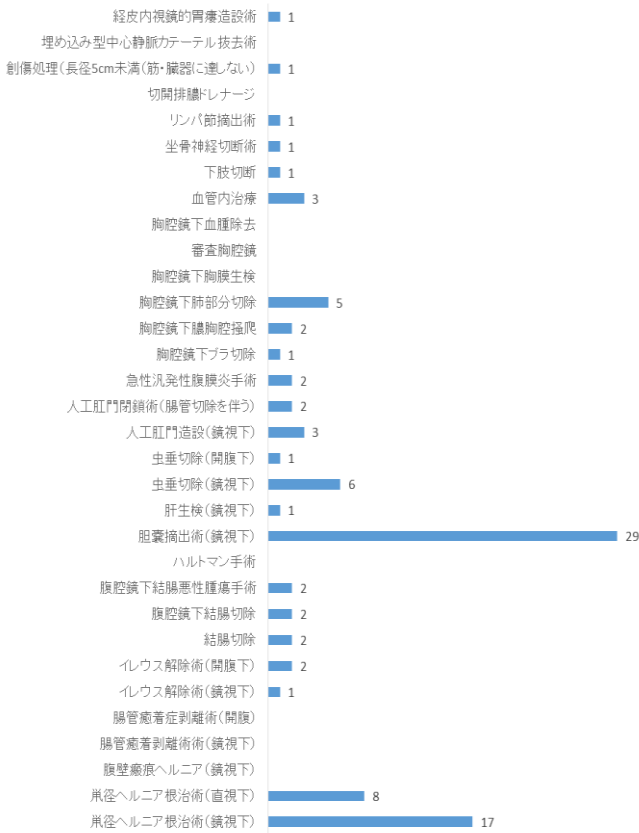


図3

C君(専攻医2年目)術者症例数総計105例

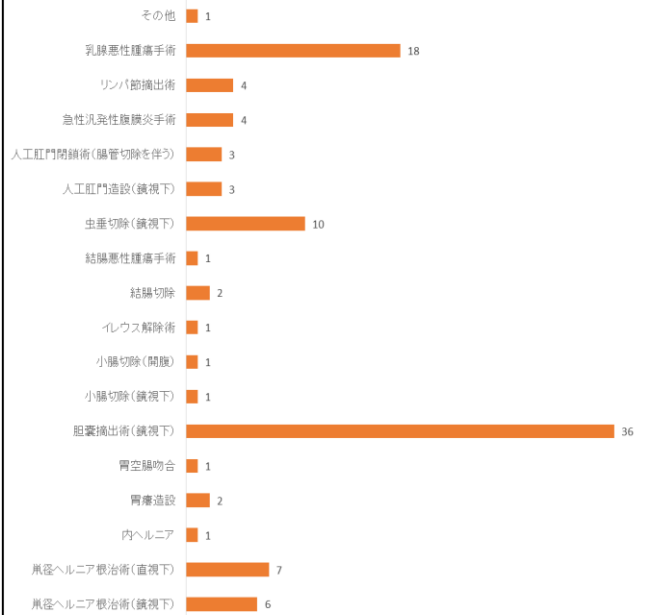


図4

D君(専攻医3年目)術者症例数総計と内訳(主要手術)
血管外科志望

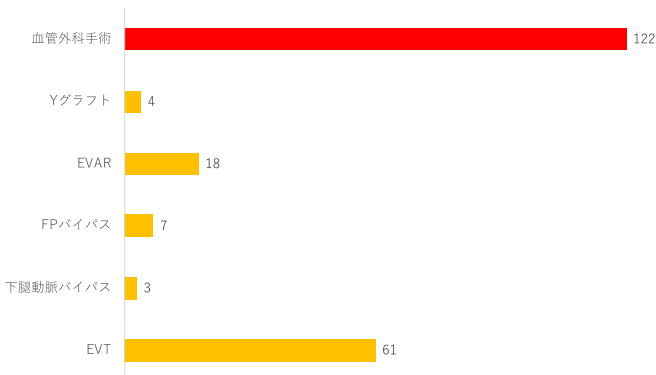


表3

1年目

虫垂切除術、ヘルニア修復術、単純性イレウス手術、人工肛門造設術（開腹）、人工肛門閉鎖術、腸管切除（小腸あるいは結腸）および再建・吻合術
胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術
乳房部分切除術、センチネルリンパ節生検
（乳腺外科専門医・研修カリキュラムの場合は乳房全摘術、腋窩郭清まで）
気胸に対する胸腔鏡下ブラ切除術
肺腫瘍に対する胸腔鏡下肺部分切除術
腸骨動脈狭窄病変に対する血管内治療
下肢大切断および小切断（足趾、足部）術

2年目

人工肛門造設術（腹腔鏡下）、汎発性腹膜炎手術、複雑性イレウス手術、結腸の良性腫瘍あるいは悪性腫瘍（早期がん）手術（主に右側結腸中心に腹腔鏡下で施行）
胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術
乳房部分切除術、乳房全切除術、センチネルリンパ節生検
（乳腺外科専門医・研修カリキュラムの場合は腋窩郭清まで）
人工呼吸器装着状態の患者に対する気管切開術
良性縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術
急性膿胸に対する胸腔鏡下膿胸腔搔爬術
大腿膝窩～下腿動脈狭窄病変に対する血管内治療
総大腿動脈内膜剝離術ができる。

3年目

消化管悪性腫瘍手術
肝部分切除術
乳房部分切除術、乳房全切除術、センチネルリンパ節生検、腋窩郭清
肺葉切除術
悪性縦隔腫瘍に対する手術
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術
大腿一膝窩動脈バイパス術